

第3節 年間指導計画の作成

1 年間指導計画の基本的な考え方

キャリア教育を全教育活動を通じて、系統的・組織的に行うためには、計画に基づき実施する必要がある。前項で述べたように、キャリア教育の全体計画は、児童のキャリア発達を促進するために、必要とされる諸能力を意図的、継続的に育成していくために、各学校における目標や育成したい能力・態度、教育内容・方法、各教科等との関連等を示すものである。それに対して、各学年における年間指導計画は、各発達の段階における能力・態度の到達目標を具体的に設定するなど、全体計画を具現化するものである。各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動の小学校学習指導要領におけるキャリア教育に関する事項を確認し、相互の関連性や系統性を留意の上、有機的に関連付け、発達の段階に応じた教育活動を展開する必要がある。そして、これらの指導計画は各学校の教育課程に適切に位置付けられるべきものである。

2 年間指導計画・単元指導計画の作成

年間指導計画に盛り込む要素としては、学年・実施時期・予定時間・単元名・各単元における主な学習活動・評価などが考えられる。児童の学習経験や発達の段階を考慮し、季節や学校行事などの活動時期を生かしたり、各教科等との関連を見通し計画する必要がある。

(1) 年間指導計画作成の手順

年間指導計画作成の手順を以下に示す。

- ① 各校の児童の学年等に応じた能力・態度の目標を決定する。
- ② キャリア教育の全体計画で設定した各能力・態度の目標に基づき、各校の年間行事予定、学年別の年間指導計画に記載する内容を検討する。
- ③ 各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動及び学級の実践等相互に関連付けた指導計画を作成する。
- ④ 各能力・態度の到達目標に応じた評価の視点を設定し、明確化する。

(2) 年間指導計画作成の留意点

年間指導計画の作成に当たっては、各学校における児童の実態や発達の段階に応じた目標や内容となるよう検討する必要がある。各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動及び学級の実践等の具体的な計画を体系的に作成し、それぞれのねらいや内容を踏まえた上で、関連付ける。また、小学校学習指導要領との関連を考慮した上で、評価の視点についても検討する必要がある。こうして作成した各学校の計画については、教職員や保護者、地域が共通理解をもち、連携していくことが大切である。

年間指導計画作成の留意点を以下に示す。

- 各校の児童の実態や発達の段階に応じた目標や内容にする。
- 各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動及び学級の実践等、それぞれのねらいや内容を踏まえて関連付けを図る。
- 児童のキャリア発達を支援できるよう、具体的で体系的なものとする。

- 各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動の小学校学習指導要領との関連を図る。
- 評価の視点等を考慮し、評価方法を検討する。
- 家庭や地域、学校間の連携を考慮する。

(3) 年間指導計画作成の効果

年間指導計画を作成することで得られる効果としては、次のようなことが考えられる。

- 学年別年間指導計画を作成することで、発達の段階に応じて学年を通したキャリア発達を支援できる。
- 発達の段階や学年に応じた身に付けさせたい諸能力・態度の到達目標が明確になる。
- 年間の学年における活動がどのような能力・態度の育成を図ろうとするものか明確になる。
- 各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動及び学級の取組等がどのように関連付けられているか明確になる。

(4) 各教科と年間指導計画

各教科ごとに学年別年間指導計画を作成する場合は、実施時期・予定時間・単元名・各単元における主な学習活動を明確にするとともに、小学校学習指導要領に書かれているキャリア教育との関連やキャリア発達能力とのかかわりを記載することで、教科におけるキャリア教育とのかかわりが明確になり、体系的・系統的な指導が可能となる。

① 小学校学習指導要領におけるキャリア教育に関する主な目標・内容等の例

次の表は、小学校学習指導要領におけるキャリア教育に関する主な目標・内容等の例である。(国立教育政策研究所生徒指導研究センター『「キャリア教育」資料集』平成21年4月を参考として作成)

〈国語〉

第2 各学年の目標及び内容

〔第3学年及び第4学年〕

2 内容

A 話すこと・聞くこと

(1) 話すこと・聞くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

〔第5学年及び第6学年〕

2 内容

C 読むこと

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 伝記を読み、自分の生き方について考えること。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

3 教材については、次の事項に留意するものとする。

(2) 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。

オ 生活を明るくし、強く正しく生きる意志を育てるのに役立つこと。

カ 生命を尊重し、他人を思いやる心を育てるのに役立つこと。

〈社会〉

第2 各学年の目標及び内容

〔第5学年〕

2 内容

- (1) 我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。
- (2) 我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかわりをもっていることを考えるようにする。

ウ 食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き

- (3) 我が国の工業生産について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにする。

ウ 工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働き

- (4) 我が国の情報産業や情報化した社会の様子について、次のことを調査したり資料を活用したりして調べ、情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを考えるようにする。

ア 放送、新聞などの産業と国民生活とのかかわり

イ 情報化した社会の様子と国民生活とのかかわり

〔第6学年〕

2 内容

- (1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。
 - (2) 我が国の政治の働きについて、次のことを調査したり資料を活用したりして調べ、国民主権と関連付けて政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていること、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを考えるようにする。
- ア 国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること。

〈算数〉

第1 目標

算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。

〈理科〉

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- (3) 個々の児童が主体的に問題解決活動を進めるとともに、学習の成果と日常生活との関連を図り、自然の事物・現象について実感を伴って理解できるようにすること。

〈生活〉

第1 目標

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年及び第2学年〕

1 目標

- (1) 自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心を持ち、地域のよさに気付き、愛着をもつことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができるようにする。
- (2) 自分と身近な動物や植物などの自然とのかかわりに関心を持ち、自然のすばらしさに気付き、自然を大切にしたり、自分たちの遊びや生活を工夫したりすることができるようにする。
- (3) 身近な人々、社会及び自然とのかかわりを深めることを通して、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活することができるようにする。
- (4) 身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの方法により表現し、考えることができるようにする。

2 内容

- (1) 学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心を持ち、安全な登下校ができるようにする。
- (2) 家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。
- (3) 自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着を持ち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。
- (4) 公共物や公共施設を利用し、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどが分かり、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。
- (5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに気付き、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。
- (6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。
- (7) 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみを持ち、大切にすることができるようにする。
- (8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。
- (9) 自分自身の成長を振り返り、多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにする。

〈音楽〉

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年及び第2学年〕

1 目標

- (1) 楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味・関心をもち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。

〔第3学年及び第4学年〕

1 目標

- (1) 進んで音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。

〔第5学年及び第6学年〕

1 目標

- (1) 創造的に音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。

〈図画工作〉

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年及び第2学年〕

2 内容

A 表現

- (2) 感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。
ア 感じたことや想像したことから、表したいことを見付けて表すこと。
イ 好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら表すこと。
ウ 身近な材料や扱いやすい用具を手を働かせて使うとともに、表し方を考えて表すこと。

B 鑑賞

- (1) 身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を指導する。
ア 自分たちの作品や身近な材料などを楽しく見ること。
イ 感じたことを話したり、友人の話を聞いたりするなどして、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付くこと。

〔第3学年及び第4学年〕

2 内容

A 表現

- (2) 感じたこと、想像したこと、見たことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。
ア 感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けて表すこと。
イ 表したいことや用途などを考えながら、形や色、材料などを生かし、計画を立てるなどして表すこと。
ウ 表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表すこと。

B 鑑賞

- (1) 身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を指導する。
ア 自分たちの作品や身近な美術作品や製作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取ること。
イ 感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどが分かること。

〔第5学年及び第6学年〕

2 内容

A 表現

- (2) 感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。
ア 感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見付けて表すこと。
イ 形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、表し方を構想して表すこと。
ウ 表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表現に適した方法などを組み合わせて表すこと。

B 鑑賞

(1) 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を指導する。

ア 自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じ取ること。

イ 感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること。

〈家庭〉

第1 目標

衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にしている心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

第2 各学年の目標及び内容

〔第5学年及び第6学年〕

1 目標

(1) 衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的な活動を通して、自分の成長を自覚するとともに、家庭生活への関心を高め、その大切さに気付くようにする。

2 内容

A 家庭生活と家族

(1) 自分の成長と家族について、次の事項を指導する。

ア 自分の成長を自覚することを通して、家庭生活と家族の大切さに気付くこと。

(2) 家庭生活と仕事について、次の事項を指導する。

ア 家庭には自分や家族の生活を支える仕事があることが分かり、自分の分担する仕事ができること。

イ 生活時間の有効な使い方を工夫し、家族に協力すること。

(3) 家族や近隣の人々とのかかわりについて、次の事項を指導する。

ア 家族との触れ合いや団らんを楽しくする工夫をすること。

イ 近隣の人々とのかかわりを考え、自分の家庭生活を工夫すること。

D 身近な消費生活と環境

(1) 物や金銭の使い方と買物について、次の事項を指導する。

ア 物や金銭の大切さに気付き、計画的な使い方を考えること。

イ 身近な物の選び方、買い方を考え、適切に購入できること。

(2) 環境に配慮した生活の工夫について、次の事項を指導する。

ア 自分の生活と身近な環境とのかかわりに気付き、物の使い方などを工夫できること。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

4 家庭との連携を図り、児童が身に付けた知識及び技能などを日常生活に活用するよう配慮するものとする。

5 各内容の指導に当たっては、衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や、自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮するものとする。

〈体育〉

第1 目標

心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

〔第3学年及び第4学年〕

1 目標

(3) 健康な生活及び体の発育・発達について理解できるようにし、身近な生活において健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。

〔第5学年及び第6学年〕

1 目標

(3) 心の健康、けがの防止及び病気の予防について理解できるようにし、健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。

② 教科の年間指導計画〈5年具体例〉

各教科の内容には、勤労観や職業観の育成につながるものも多く、それぞれの教科目標の実現がキャリア教育に資する。特に、自分の将来に目を向け始める高学年では、児童が主体的に自分の生活体験や興味・関心を基に課題を見付け、自ら解決に向けた取組ができるように配慮し、課題選択能力や課題解決能力を育てることが大切である。自らの将来について考える機会を通して、自分の良さや可能性に気付かせ、自分らしい生き方を実現しようとする態度を育成することが大切である。

時期	時間数	単 元 名	主な学習活動	学習指導要領・キャリア発達能力との関連
4月	6	国語「筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう」	・筆者や他者の物の見方などを理解する。	・ <u>他者の考えを尊重し、自分の意見をもち生き方を考えることができる。</u>
5月	6	社会「工業の様子と国民生活」	・工場の人々へのインタビューや聞き取り活動、工場見学をして工場の様子を知る。	・工業生産に従事している人々の工夫や努力について理解する。 <u>地域社会の一員としての自覚をもつ。</u>
6月	4	家庭「見つめよう家族とのくらし」	・衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的な活動。	・ <u>家族・家庭生活の大切さに気付く。</u>
7月	4	社会「情報産業と私たちの生活」	・社会的事象を調査する。地図や具体的資料を活用し、調べたことを表現する。	・テレビ、新聞、コンピュータなどの <u>情報手段を活用する。</u> ・社会の様子について調査し、 <u>情報産業が私たちの生活に深くかかわっていることを理解する。</u>

(5) 道徳と年間指導計画

道徳の時間の年間指導計画の作成に当たっては、道徳教育の全体計画に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、計画的、発展的に授業がなされるよう工夫することが大切である。その際、各学年段階ごとの内容項目については、児童や学校の実態に応じて、学年間を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を密にした指導を行うよう工夫することが必要である。特に、キャリア教育との関連においては、「集団における役割と責任を果たすこと」「働くことの大切さを知り進んでみんなのために働く」や「自己の生き方についての考えを一層深める」などの指導を工夫するとともに、その学年の学校行事や学級活動などとの関連を考慮し、実施時期・予定時間・主題名を記載することで、キャリア教育とのかかわりを明確にすることが望ましい。

① 小学校学習指導要領におけるキャリア教育に関する主な目標・内容等の例

次の表は、小学校学習指導要領におけるキャリア教育に関する主な目標・内容等の例である。(国立教育政策研究所生徒指導研究センター『「キャリア教育」資料集』平成21年4月より抜粋)

〈道徳〉

第1 目標

道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳の実践力を育成するものとする。

第2 内容

〔第1学年及び第2学年〕

1 主として自分自身に関すること。

(1) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。

3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること。

(1) 生きることを喜び、生命を大切にすることを。

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること。

(2) 働くことのよさを感じて、みんなのために働く。

(5) 郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。

〔第3学年及び第4学年〕

2 主として他の人とのかかわりに関すること。

(4) 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること。

(2) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。

〔第5学年及び第6学年〕

1 主として自分自身に関すること。

(4) 誠実に、明るい心で楽しく生活する。

(6) 自分の特徴を知って、悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす。

2 主として他の人とのかかわりに関すること。

(5) 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。

3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること。

(1) 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること。

(3) 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。

(4) 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 各学校においては、校長の方針の下に、道徳教育の推進を主に担当する教師（以下「道徳教育推進教師」という。）を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開するため、次に示すところにより、道徳教育の全体計画と道徳の時間の年間指導計画を作成するものとする。

(3) 各学校においては、各学年を通じて自立心や自律性、自他の生命を尊重する心を育てることに配慮するとともに、児童の発達の段階や特性等を踏まえ、指導内容の重点化を図ること。特に低学年ではあいさつなどの基本的な生活習慣、社会生活上のきまりを身に付け、善悪を判断し、人間としてしてはならないことをしないこと、中学年では集団や社会のきまりを守り、身近な人々と協力し助け合う態度を身に付けること、高学年では法やきまりの意義を理解すること、相手の立場を理解し、支え合う態度を身に付けること、集団における役割と責任を果たすこと、国家・社会の一員としての自覚をもつことなどに配慮し、児童や学校の実態に応じた指導を行うよう工夫すること。また、高学年においては、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題を積極的に取り上げ、自己の生き方についての考えを一層深められるよう指導を工夫すること。

② 道徳の年間指導計画＜5年具体例＞

道徳の時間では、道徳的価値の自覚を深めることを通して、道徳的実践力が育つように指導を工夫する。

時期	時間	内 容	関連した活動	キャリア教育との関連
4月	2	2-(2) 「思いやりの心をもち親切に」 相手の立場に立つ。	学級づくり	<u>相手のことを考えた挨拶や返事が出来る。</u>
5月	1	4-(3) 「集団の中で役割を自覚して」 集団の中で、自分の役割と責任を主体的に果たす。	係活動 当番活動 遠足	役割分担して学校行事や学習を進めることができる。 社会の一員として役割と責任を果たす。
6月	3	4-(4) 「社会のために進んで働く」 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを感じる。	総合「町調べ」 社会「地域の産業の様子」	見学や調査の計画を立てることが出来、自分の立場を理解して、 <u>役割と責任を果たす。</u> <u>勤労を尊ぶ心を育て働くことの意義を理解する。</u>
7月				
1月	2	1-(6) 「自分らしさを発揮して」 自己の生き方を見つめ、自分の特徴を多面的にとらえる。	「わたしの夢」発表会	自分の特徴を多面的に捉え、 <u>長所を伸ばし、短所を改善しようとする。</u>

（6）総合的な学習の時間と年間指導計画

総合的な学習の時間の年間指導計画の作成に当たっては、学校行事や各教科等の学習に配慮することはもちろん、学校が位置している地域の地理や気候風土などの自然事象にかかわる特色、産業や公共施設などの社会事象にかかわる特色、地域の年中行事や歴史などの地域文化にかかわる特色など、総合的な学習の時間を有意義なものとする地域素材を十分に吟味して作成するとともに、問題の解決や探究活動となるよう計画することが肝要である。特にキャリア教育との関連においては「自己の生き方を考えることができるようにすること」を重点に、身近な働く人や仕事にふれあうことでいろいろな職業や生き方があることを学んだり、体験活動を通して仕事の大変さや仕事の喜びを働く人と一緒に味わったりすることなどを考慮し、キャリア教育との関わりを明確にすることが望ましい。

① 小学校学習指導要領における総合的な学習の時間の目標

総合的な学習の時間は、「自己の生き方を考えることができるようにする。」を目標の一部としており、キャリア教育と深くかかわっている。

〈総合的な学習の時間〉

第1 目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

② 総合的な学習の時間と年間指導計画〈6年具体例〉

総合的な学習の時間の目標は、①横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと、②自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること、③学び方やものの考え方を身に付けること、④問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること、⑤自己の生き方を考えることができるようにすることであり、この目標を達成することはキャリア教育にもつながっている。その取組として次に具体例を示す。

時期	キャリア発達課題	主な学習活動	キャリア教育との関連
4月	自分の役割や責任を果たし、役立つ喜びを体得する。	「仕事や地域の人々について調べよう」 ①何を調べるか課題を設定しよう。 ②情報を収集しよう。 地域の事業所を訪問してインタビューをする。	社会の一員として何をすべきか考えられるような <u>探究的な活動</u> を取り入れる。
5月	集団の中で自己を生かす。	③インタビューしたことを整理・分析しよう。 ④まとめて発表しよう。	
6月	自己のかかわりから、自分の夢や希望をふくらませる。	「自分の将来の夢を発表しよう」	希望や目標に向かって学習を進めるなど <u>自己の生き方を考える活動</u> を取り入れる。
7月		「清掃活動に参加しよう」	<u>地域社会にかかわる喜びや物づくりの楽しさを実感できるような体験活動</u> を取り入れる。

(7) 特別活動と年間指導計画

特別活動の全体計画や各活動・学校行事の年間指導計画の作成に当たっては、学校の創意工夫を生かすとともに、学校・学級の実態や児童の発達の段階などを考慮し、児童による自主的、実践的な活動が助長されるようにすることが大切である。また、各教科、道徳、外国語活動及び総合的な学習の時間などの指導との関連を図るとともに、家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫することも必要である。特に、キャリア教育との関連においては、仕事の分担処理など、日常生活や日常的な取組等に関連する事項が多いことや、希望や目標をもって生きる態度、勤労や生産、望ましい人間関係、働くことなどに関連する事項を考慮しつつ、学級活動、児童会活動、クラブ活動及び学校行事におけるねらいとキャリア教育の視点を有機的に関連付けて計画を立てることが望ましい。

① 小学校学習指導要領におけるキャリア教育に関する主な目標・内容等の例

次の表は、小学校学習指導要領におけるキャリア教育に関する主な目標・内容等の例である。(国立教育政策研究所生徒指導研究センター『「キャリア教育」資料集』平成21年4月より抜粋)
〈特別活動〉

第1 目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。

第2 各活動・学校行事の目標及び内容

〔学級活動〕

2 内容

〔共通事項〕

(1) 学級や学校の生活づくり

ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理

ウ 学校における多様な集団の生活の向上

(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全

ア 希望や目標をもって生きる態度の形成

イ 基本的な生活習慣の形成

ウ 望ましい人間関係の形成

エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解

オ 学校図書館の利用

カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

〔学校行事〕

2 内容

全校又は学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うこと。

(5) 勤労生産・奉仕的行事

勤労の尊さや生産の喜びを体得するとともに、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動を行うこと。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(2) 〔学級活動〕などにおいて、児童が自ら現在及び将来の生き方を考えることができるよう工夫すること。

② 特別活動の年間指導計画〈4年具体例〉

特別活動では、特に学級活動の内容（2）として、「希望や目標をもって生きる態度の育成」を示すとともに、学級活動などにおいて児童が自ら現在及び将来の生き方を考えることができるように工夫することとされている。

時期	キャリア発達課題	主な学習活動	キャリア教育との関連
4月	自分の役割や責任を果たし、 役立つ喜びを体得する。	児童会集会 委員会活動	異年齢集団の活動に進んで参加し、 <u>高学年としての役割と責任を果たそうとする態度を育てる。</u>
5月	自分の役割を果たし、協力して活動することで、働くことの大切さや充実感味わう。	地域クリーン作戦 ボランティア活動	<u>ボランティア活動などの体験から勤労の尊さを感じ、社会奉仕の精神を養う。</u>
6月 7月	社会と自己のかかわりから、 自分の夢や希望をふくらませる。	学級活動「私の夢」 発表会	中学校での生活や将来の生き方を話し合い、 <u>希望や目標をもって生きる態度を育てる。</u>



(8) 各教科等を横断的にみた年間指導計画（一覧）

各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動の学習指導要領におけるキャリア教育に関する事項を確認し、相互の関連性や系統性を留意の上、有機的に関連付け、発達の段階に応じた創意工夫ある教育活動を展開するためには、各教科等において作成した指導計画をすべて一覧にし、学年・実施時期・予定時間・単元名・各単元における主な学習活動・評価等を確認・整理することが望ましい。

年間指導計画 〈4年具体例〉

時期	特別活動	総合的な学習の時間	道徳	教科
4月	「4年生になって」 「日直の仕事」 役割分担をしっかりとしよう。		1-(1) 自分でできることは自分でやり、節度ある生活をする。	
5月		「住みよい町を作るために」 探究的な学習を通して、地域の人々の暮らしや生き方を学ぶ。	2-(4) 生活を支える人や高齢者に尊敬と感謝の気持ちをもって接する。	社会:「安全な暮らしとまちづくり」 国語:「調べて発表しよう」 言葉によるコミュニケーション能力を高める。
6月	「安全なまちづくり報告会をしよう」			
7月	夏休みの計画を立てよう。		3-(2) 自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然を大切にする。	理科:「出かけよう科学の世界へ」
9月	2学期のめあて 自分のやりたいことやよいと思うことを考え、進んで取り組む。	1/2成人式をしよう 自分のよいところを見つけるとともに友達のよいところを認め励まし合う。将来の夢や希望をもつ。	3-(1) 命の大切さ 1-(5) 長所を伸ばす 自分のよいところを見付け、自分の生活を支えている人に感謝する。	体育:「育ちゆく体とわたし」 年齢によって体に変化していることや、成長の仕方が違うことを理解する。
10月	体育大会 集団目標の達成に主体的にかかわったり、共同の活動に取り組む。		4-(2) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。	国語:「調べたことを知らせよう」 日常の生活や学習と将来の生き方との関係に気付く。
11月	学芸会	地域の祭りに参加しよう 自分の生活を支えている人に感謝する。伝統的な文化を体験する。	4-(5) 伝統と文化を大切に郷土を愛する。	社会:「のこしたいもの伝えたいもの」 いろいろな職業や生き方があることがわかる。
12月				
1月	3学期のめあて めあてを再確認することで、社会性を培う。		1-(2) 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。	
2月	ドッジボール大会を開こう 集団における自己の存在を認識し、自らの持ち味や役割を自覚する。		2-(3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。	体育:「ルールを守ってゲームを運営しよう」
3月				